

O-2-57 インプラントの長期安定に向けた細菌検査の実践と活用

Practice and use of bacterial testing for long-term dental implant stability

○須田 佳代子, 青木 美奈, 佐々木 由華, 今野 友稀, 小川 紗弓, 古井戸 綾乃, 増木 英郎

○SUDA K, AOKI M, SASAKI Y, KONNO Y, OGAWA S, KOIDO A, MASUKI H

東京形成歯科研究会

Tokyo Plastic Dental Society

I 目的：インプラントの長期安定には、埋入前よりセルフケアの定着で歯周病を改善しメインテナンス移行後も維持していく必要がある。口腔細菌検出装置は歯周病菌を把握でき、わかりやすい結果から患者のセルフケアへの意識が高まり、細菌の減少や歯周病の改善、維持に活用している。歯肉およびインプラント周囲粘膜の炎症で出血が認められた場合、細菌は口腔内全体で増えているのか、歯やインプラントに限局しているのか検証し、測定時期や採取部位の選択に役立つデータが得られたので報告する。

II 方法の概要：院内で検査を完結できる口腔細菌検出装置を使用し、検体のプラークを同患者の異なる対象歯、インプラント部より採取し P.g. 菌に差が出るかそれぞれ 5 名を対象に測定した。歯を対象としたグループは、歯周ポケット 4mm 以上 BOP (+) と歯周ポケット 3mm 以下 BOP (-) の 2 か所より検体を採取。インプラントを対象としたグループは、インプラント周囲溝部 4mm 以上 BOP (+) とインプラント周囲溝部 3mm 以下 BOP (-) の 2 か所より検体を採取し検査数値を求めた。

III 考察および結論：歯を対象としたグループは数値に差が出

なかっただ、インプラントを対象としたグループは、インプラント周囲溝部 4mm 以上 BOP (+) は高い数値が検出され、インプラント周囲溝部 3mm 以下 BOP (-) は低い数値であった。歯では別の部位から採取しても数値に変化がなく、口腔内全体の細菌把握ができ、インプラント埋入前や定期的な測定に適しているといえる。インプラントでは部位毎に変化があり、メインテナンス時に特定部位の経過を追うのに適しているといえる。(検査はインフォームドコンセントを得て実施した。また、発表についても患者の同意を得た。倫理審査委員会番号 17000114 承認 承認番号 25313 号)